

みなさんお元気ですか。

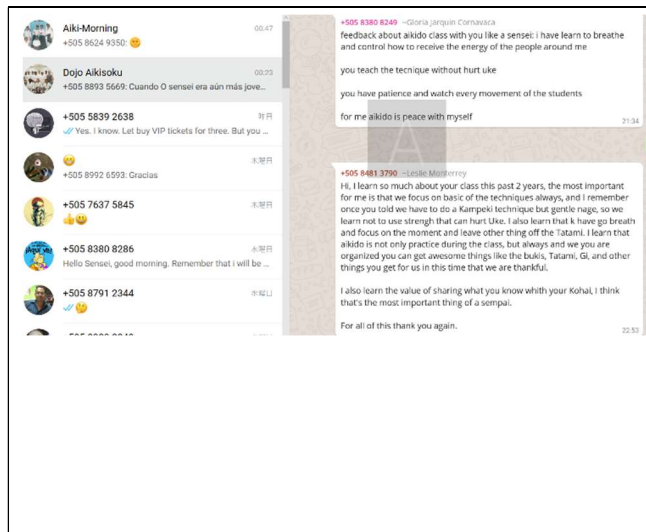
2017年9月の道場での様子をお便りします。ご覧くださいませ。



9月8日、「合気即生活」道場での最後の稽古日となった。この日は、最初にソチ (Xochilite) さんの1級の昇級審査をした。その後で、私の授業を20分ほどして、先週から行っている昇級審査の合格者に認定書授与式をし、最後は簡単なパーティーとなった。ソチさんは、この道場で一番稽古日数の多い生徒だ。一週間に4日はくる。毎週水曜日だけは、休みとして、この日はヨガ(ドイツ式)をやっているとのこと。彼女は先週審査を受けたのだが、不合格だったので、今週再挑戦した。彼女は、技とその名前はしっかりと憶えていて、いいのだが少し覇気がない。私と同じく審査員の道場長は、今回も不合格と言ったが、彼女の稽古数の多さは当道場では一番だから、その点を考慮して、合格とした。先月から袴をはいて稽古している。自分の袴姿が気に入っているらしい。私がいなくなってもいつものように稽古を続けることを期待している。



9月8日。日本公園での最後の授業となった。最後に生徒に伝えておきたい言葉として、「合気とは和合なり」を挙げ、正面にも書き物を貼った。この言葉は、旧道場でも言ってきた。また講習会の時も言ってきた。もうこれで最後になるので、技の伝承だけでなく、大先生の思想ももう一度伝えておきたかった。前述の言葉の英訳を「Aikido is to train to blend, with a mental attack as well as a physical one.」とした。この事を道場長や生徒に以前説明したが、イマイチ、パツとしなかった。分かってくれたのかどうか。今回は、逆手取り2教の技を見せながら、大先生の言葉も説明した。また、合気道の技で、呼吸法と半身の重要性を説いた。2教を相手に利かすときもまず、自己が丹田から大きく息を吐きながら、ゆっくりと相手を抑えていくこと。そして、このときに相手の「受け」の事も考えてやるように。これは相手への思いやりだ。急に力任せに強くやってはいけない。また、力を抜いて弱すぎてもいけない。「受け」は「投げ」の



呼吸に合わせて、自分も息を吐くこと。これが合わせである。「和合である」と。「受け」と「投げ」は、お互いの呼吸を合わせる事。相手の攻撃する力に合わせるのも「合わせ」であるが、相手の呼吸に合わせることも重要だと説明した。この稽古の後に、集合写真を撮り、生徒が作ってきたケーキとピццаとコーラを飲んでパーティは終わった。帰りのバスの時間が気になるのか、生徒たちは早々と道場をさった。翌々日私の家で打ち上げパーティをした。そして、私への感想を **WhatsApp** で送ってくれるように頼んだ。生徒たちからのメッセージには、基本技の重要性、投げと受け、先輩と後輩の関係、私が伝えたかった大先生の哲学など、理解したことと感謝の言葉があった。私は生徒たちの感想を読んで、少し目頭が熱くなった。私の説明が生徒に伝わったんだと。でも英語で説明していたから、スペイン語以外理解できない人は、どうなんだろう。2年間ここにいたけど、私のスペイン語はさっぱり伸びなかった。



9月9日、武士道道場の出前授業に行って、バイロン (Byron) の昇級審査を行った。この道場へは毎週土曜日に行くことにしている。この道場には、3名の生徒がいて、3人ともまじめで、仲もいい。前回までの昇級審査で2名には2級をあげた。残りのバイロンにも2級をあげたかった。しかし、実際に審査を見ると手の掴み方や足の捌きなど不正確な所が多かった。審査中に何回も訂正してやらせたのだが、相手の掴み方が変わると、同じ間違いをする。土曜日以外にも審査のために稽古したと聞いていたが、そのやる気は認めるか。また、他の二人と同等にするために、2級にするか、いろいろと迷った。しかし、他の二人に比べるとレベルは落ちる。やっぱり不合格として、審査は終わった。審査後に、他の生徒は、別の日の稽古中はどうも技をかけていたのに、どうして今日は上手いかなかったのか、と残念がっていた。それを聞いて、私もバイロンに2級をあげるべきか動揺したが、今後のためを思って思いとどまった。



